

ヒッグス粒子発見

2013年ノーベル物理学賞にかがやいた「ヒッグス粒子」。
ヒッグス粒子は、宇宙を今ある姿にするには欠かせない存在であるが、
これまでとらえることが出来なかった。
世界の研究者が集結して作った最先端の研究装置LHCで
ついにとらえることに成功した。
そのドラマと、素粒子研究の今後に迫ります。

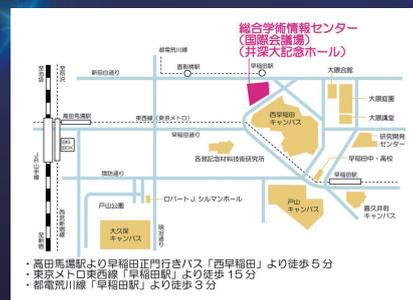
2013年10月27日 日 12:00 開場 13:30 開演

場所／早稲田大学 国際会議場 井深大記念ホール
最寄り駅：早稲田駅（東西線、都電荒川線）、西早稲田（都営バス）

定員／450名（先着順）

登壇者／司会 小林 富雄（東京大学 素粒子物理国際研究センター）
寄田 浩平（早稲田大学 理工学研究所・先進理工学部物理学科）
北野龍一郎（高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所）

共催／早稲田大学 理工学研究所
東京大学 素粒子物理国際研究センター
新学術領域研究「先端加速器 LHC が切り拓くテラスケールの素粒子物理学」



参加費・
参加登録
不要